

日本語教育機関名		専門学校神田外語学院（キャリア日本語科）	
		点検・評価項目（振り返りのための着眼点）	評価
1 教育の理念・目標と、その具体化のための方策			
①	【理念】  【目標】  【具体化のための方策】	<p>日本語力を駆使し、相互理解を深め協働する真のグローバル人材として世界に羽ばたくための素養を身につけた人材の育成</p> <p>建学の精神「言葉は世界をつなぐ平和の礎」に基づき、教育理念を実現するため、以下に掲げる人材を育成することを教育目標とする。</p> <p>(1)ビジネスの場面で使用する高度な日本語能力とコミュニケーションスキルを備え、語学力を駆使して世界の架け橋となる人材を育成する。</p> <p>(2)母国と異なる日本の企業文化やビジネス環境に対する洞察力を備え、企業で即戦力として活躍できる人材を育成する。</p> <p>(3)国内外の多様な文化や価値観を理解し、異文化調整力を高め、社会で主体的に行動し、協働・共創できる人材を育成する。</p> <p>(1)(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就職活動、及び就労のために必要な日本語教育を重視しており「キャリア日本語教育」を実践している。就職する上で日本語能力の証明に必要な日本語能力試験に関しても、レベル別に対策を行っている。</li> <li>・日本国内での就労に向けたキャリア教育および就職支援を行っている。その一環として年間40回のキャリアセミナーを3領域「環境分析・自己分析・就職対策」で実施する。</li> <li>・個別相談・履歴書添削・模擬面接・業界研究・OBOG講話などを通じた継続的なキャリアサポートを行っている。</li> <li>・修了後の在留資格「技術・人文知識・国際業務」取得を見据えた、職種適合型の就職指導を行っている。同時に学生の日本語力と職業選択希望によっては在留資格「特定活動1号」の取得も視野に就職指導もしている。</li> <li>・今後は就職実績を業種別・企業別に記録・整理し、教育成果の可視化に努める。</li> <li>・入学前にオンライン面談を実施し、志望動機や学習目的を確認し、入学後の個別指導や就職支援に反映している。</li> </ul> <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・異文化コミュニケーションや総合日本語、企業研究といった科目を設置し、主体性・協働力・異文化調整力を養う。</li> <li>・日本社会に実際に触れるための社会見学、学校見学や地域行事などへ参加する。</li> <li>・学内他学科との共用施設が十分にあり、日本人学生と日常的なコミュニケーションの機会が得られることから、留学生と日本の学生が授業外で交流できるように、文化体験イベントでの協働作業や日本語で交流する機会を設ける。</li> </ul>	
2 日本語教育機関の運営			
①	認定日本語教育機関認定基準又は日本語教育機関の告示基準に適合していることを年1回以上確認している。		A
②	運営の透明性が確保されている。	<p>校長、主任教員、専任教員、非常勤教員、事務局統括職員、事務職員の職務内容及び責任と権限を明確に定め、かつ、教職員間で周知されている。</p> <p>管理、運営のための諸規程を整備し、規定に基づいた運営が効果を上げている。</p> <p>予算編成が適切になされ、明確なルールにより執行している。</p>	A
③	運営に必要な情報が機関内の関係者間で共有されている。	<p>機関の短期及び中長期目標が教職員間で周知されている。</p> <p>運営や教育活動に必要な情報を教職員間で共有する仕組みがあり、機能している。</p>	A
④	運営にあたり法令を遵守している。	<p>コンプライアンス意識向上のため担当者を定めて取組を行い、効果が出ている。</p> <p>関係官庁への届出、報告を遅滞なく行っている。</p>	A
*	<現状・取り組み・課題等> 告示基準に則り、出入国および在籍管理を適切に実施している。また、職務分掌の明確化と教職員間の密な連携により効率的な学校運営に努め、中長期目標の進捗や課題、改善策については会議を通じて定期的に共有・検討している。		
3 情報公開			
①	機関の設置者、教育内容、定員、進路等の情報をホームページ等で公開している。		A
②	募集及び納付金に関する情報を公開している。		A
③	入学希望者やその関係者に理解できる言語で情報提供を行っている。		A
④	情報は十分に整理されて公開されており、必要な情報がどこにあるかが分かりやすく示されている。		A
⑤	公開されている情報は常に最新のものに更新されている。		A
*	<現状・取り組み・課題等> 必要な情報については、公開されている。複数言語による公開についても検討してまいりたい。		
4 入学者の募集と選考			
①	適切な方法で入学者の募集を行っている。	<p>教育目標に合致した募集計画を立案し、募集地域や対象者を定めて募集活動を行っている。</p> <p>機関所属の職員が入学希望者に対して情報提供や入学相談を行っている。</p> <p>海外の募集代理人に最新かつ正確な情報提供を行っている。</p> <p>海外の募集代理人の適切性を確認し、募集活動を具体的な情報により把握している。</p>	A
②	適切な方法で入学者の選考が行われている。	<p>受け入れるコースの教育内容が入学志願者のニーズと合致することを確認している。</p> <p>入学選考基準及び方法が定められ、適切な体制で入学選考を行っている。</p> <p>入学志願者の学習能力、学習意欲、日本語能力等を確認している。</p> <p>入学志願者の情報を正確に把握し、提出された根拠資料で確認している。</p> <p>不法残留者を多く発生させている国からの志願者には機関所属職員が面接等の調査を行っている。</p>	A
*	<現状・取り組み・課題等> これまでの課題として、キャリア日本語科が求める日本語力に完全には達していない学生が若干名入学していたが、直近では面接試験の拡充や書類選考の厳格化、そして紹介代理店から本人へ、日本語学習の継続指導を強く要求したことにもない、改善が図られている。		
5 教育活動			
①	教育目標に合致した教育活動の計画を作成している。	<p>理念と教育目標達成のためのカリキュラムを編成している。</p> <p>学生の熟達度を、特定の試験の成績だけで判定するのではなく、「日本語教育の参照枠」の枠組みの中に位置づけて理解する試みを行っている。</p> <p>理念及び教育目標に適合した教材が選択、又は制作されている。</p>	A
②	教育活動を適切に実施するための手立てを講じている。	<p>教育活動の計画が教員全体に周知されている。</p> <p>学生の日本語能力を試験等により判定し、適切なクラス編成を行っている。</p> <p>当該学期の学習内容及び学習予定等を学生に開示している。</p> <p>出席簿を備え、正確に記録している。教育活動の振り返りと改善に活かせるような形で授業記録簿を残し、記録内容を関係教員間で共有している。</p> <p>学習成績の判定基準及び方法が定められ開示されている。また判定結果を的確に学生に伝えている。</p>	A
③	授業を含む教育活動全体の検証を定期的かつ適切に行っている。		A

		<p>検証のための体制、方法及び評価の基準を定めている。</p> <p>学生からの評価も含む、多方向的な評価システムが導入されている。</p> <p>「～を実施している」ことの確認だけでなく、「それが実際に効果を上げているか」、 根拠に基づき確認できるような評価システムとなっている。</p> <p>評価結果が教育内容や方法等のプログラム改善、教員の教育能力向上等の取組に反映されている。</p> <p>評価システムを改善していくための検討が常に行われ、実際に改善が行われている。</p>	
	<p>* &lt;現状・取り組み・課題等&gt;</p> <p>①日本語教育の参照枠（留学）（就労）、及び就労場面で必要な日本語能力の目標設定ツール等を参照し、本学ではキャリア日本語教育を策定・実践している。</p> <p>②教育活動の計画は、毎学期、ロードマップ、定例会議及び教員マニュアル等を整備し、周知している。</p> <p>学生向けには、「授業案内」を配布しての授業オリエンテーション、各科目ごとのシラバスにて学習内容及び評価方法を明示している。</p> <p>③学生の学習状況や各授業評価、コース評価の結果を踏まえ、レベル別・科目別に改善を行っている。</p> <p>翌年度は開設から2年間の教育活動全体を検証し、現在の状況に応じて修正するとともにコースの充実を図る事とする。</p>		
6	教職員育成		
	① 教育力及び支援力強化のための取組を適切に行っている。	<p>教育目標達成に必要な教職員の能力及び資質を明示している。</p> <p>新任教員、初任教員を対象とし、明示された「必要な能力・資質」を向上させることを目的とした研修を実施している。</p> <p>経験問わず、所属する教職員を対象に、振り返りの機会を設け、情報の共有や成果の確認を行っている。</p> <p>他機関の実施する研修会等への参加を促している。</p>	A
	② 教職員の自己評価等を含む多方向的な教職員評価を行っている。	<p>教職員評価のための体制、方法及び評価の基準を定めて、開示している。</p> <p>上位者からの評価だけでなく、自己評価、相互評価、学生からの評価も含む、多方向的な評価システムが導入されている。</p> <p>評価結果を的確に教員に伝え、それが教員の能力・資質の向上に結び付いている。</p> <p>評価システムを改善していくための検討が常に行われ、実際に改善が行われている。</p>	A
	<p>* &lt;現状・取り組み・課題等&gt;</p> <p>・毎学期、当科のミッション及びレベル別、科目別「必要な能力・資質」を明示し、繰り返し伝達している。</p> <p>今後は科目別に分科会も実施し、科目の特性に応じた指導法・評価法・指導技術の向上に繋げる事とする。</p> <p>・今年度より学生評価に留まらず、各教員が自身の授業を振り返り、自己評価を実施し、システム化している。</p> <p>今後は評価結果を踏まえ、全講師が質の高い授業を保證できるよう、必要な研修項目を焦点化して実施する必要がある。</p>		
7	学生支援		
	① 日本社会を理解し、一構成員として活動するための取組を適切に行っている。	<p>留学生生活に関するガイダンスを定期的実施し、その効果を確認している。</p> <p>留学生生活に関する生活指導担当者が特定され、周知されている。</p> <p>日本社会、日本文化を理解するための活動を行っている。</p>	A
	② 進路指導を適切に行っている。	<p>進路指導担当者が特定されている。</p> <p>学生の希望する進路を随時把握し、入学時から一貫した指導をしている。</p> <p>進学及び就職に関する資料や情報を収集し、学生に提供している。</p> <p>卒業後の進路を把握している。</p>	A
	③ 安全な留学生生活を送るための適切な取組をしている。	<p>健康、衛生面について指導する体制を整えている。</p> <p>重篤な疾病や障害、交通事故に遭った場合の対応、及び感染症発生時の措置を定めている。</p> <p>火災、地震、台風等の災害発生時の避難方法を定め、避難訓練を定期的実施している。</p> <p>必要な場合は母語等による支援体制を整えることができる。</p>	B
	④ 入国・在留に関する指導及び支援を適切に行っている。	<p>入管法上の留意点について学生への伝達、指導を定期的に行っている。</p> <p>不法残留者、資格外活動違反者、犯罪関与者を発生させないための取組を継続的にを行い、発生を防いでいる。</p>	A
	<p>* &lt;現状・取り組み・課題等&gt;</p> <p>適宜、学生への生活習慣・学習に関するガイダンスを実施しており、長期休暇前には特に時間を設け実施している。天候不良や通院等により緊急対応が必要な場合には、担当職員と教員が連携し、個別の状況に応じた支援を行っている。専門学校としてこれまでに整備してきた学生支援体制や各種マニュアル、緊急時における連絡体制を基盤としつつ、留学生対応については在籍管理や生活支援等を含め、よりきめ細やかな運営体制を整備し、教職員間で情報共有と連携を図りながら、ルールに基づいた指導や学生管理にあたっている。欠席が増加している学生や生活・学習面で不安が見られる学生については、問題が深刻化する前に個別面談を適宜実施し、早期の支援・指導を行っている。第一期の修了生は全員、日本企業への就職が決まったが、今後も継続的に良質な修了生を輩出できるよう学内キャリア教育センターと連携を図っていく。</p>		
8	施設・設備		
	① 語学学習に適した施設・設備である。	<p>教室内は十分な照度があり換気がなされているとともに、必要な遮音性が保たれている。</p> <p>視聴覚教材やICTを活用した授業が可能な教育用機器及び設備が備わっている。</p> <p>授業時間外に自習できるスペースおよびリソースを提供している。</p>	A
	② 学生及び教職員の安全を考慮し、適切な対応を行っている。	<p>法令上必要な設備等を備えている。</p> <p>廊下、階段等は緊急時に危険のない形状である。</p> <p>バリアフリー対策を施している。</p>	B
	<p>* &lt;現状・取り組み・課題等&gt;</p> <p>視聴覚教材やICTを活用した授業が可能な教育用機器も含め、専修学校設置基準および法務省告示基準に則った設備は整備されている。また、授業外で自習できるスペースも確保されている。校舎のバリアフリー対策については、築年数の浅い校舎を除き、構造上改修できない箇所がある。</p>		
9	地域貢献・社会貢献		
	① 地域貢献、社会貢献となる活動を行っている。	<p>小中学校の国際理解教育、ボランティア通訳等の地域活動への参加、地域の人々との交流活動を行っている。</p> <p>地域における日本語教育等を積極的に行っている。</p>	A
	<p>* &lt;現状・取り組み・課題等&gt;</p> <p>・定期的に地域の方と交流会や授業ビジットを実施し、地域の人々との親睦を深めている。</p> <p>・学生が地域の事情を理解し、多文化共生社会の実現に向けた課題について検討する機会を設けている。</p> <p>・今後は、学生が就職後に地域社会の一員として社会参画していくための機会を創出していく予定である。</p>		
10	財務		
	① 日本語教育を継続的に行うために適切な財務状況である。	<p>財務状況は、中長期的に安定している。</p> <p>予算・収支計画の有効性及び妥当性が保たれている。</p> <p>適正な会計監査が実施されている。</p>	A
	<p>* &lt;現状・取り組み・課題等&gt;</p> <p>設置者である学校法人佐野学園の財務状況は中長期的に安定している。予算・収支計画は毎年度、実情に合わせて策定され、評議員会および理事会の承認を経て執行されている。また、毎年度公認会計士による会計監査を受審しており、会計処理が適正であるとの評価を得ている。</p>		

#### 評価方法

- ・A: 「達成している」あるいは「適合している」項目。
- ・B: 「一部達成」であるが、1年を目途に達成あるいは適合が確実な項目。
- ・C: 「未達成」あるいは「適合していない」項目。